

風に学び 湖に競う

琵琶湖で

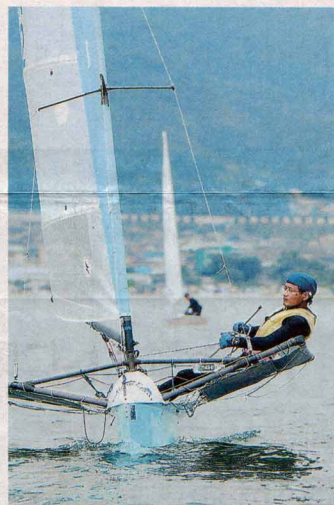
「SAILおおつ」



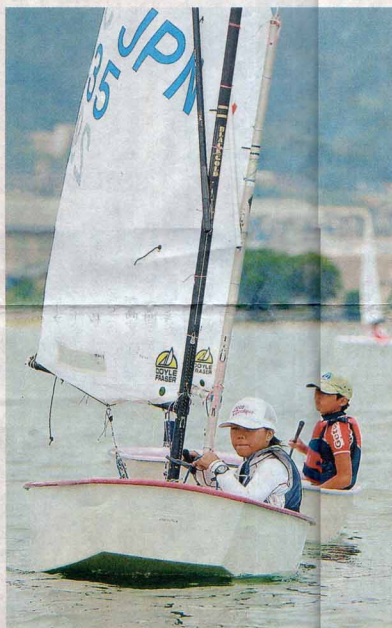
笑顔 「風が気持ちいい」。親子で楽しめるのも市民レースならではの

風をいっばいに受けた最後の日曜日の二十八、終わりの日差しを浴び、の部(十三艇、中学生、帆船が琵琶湖を彩るヨット。日、大津市の湖が輪つ、波を切つて滑走した。以の子もを対とし、午前十一時にスタート。七艇の艇体使われる。たラ(オストOP)と、七艇レースは、東かの風、参加は風を200)。京都朝社、た、京神から集まった、四七の総レ、サー、線のや弱風で、参加や風の空をのみは、前主催、琵琶湖ヨット楽、ベテランから学生まで、ど、ヨットの種を開わ、レースは、午前と後の二、者たは不足な艇と、ながら、巧みにかし七部など主管が、夏休みのヨット愛好家が、夏の、ず誰でも参加できる、般、回行われ、順位を競う、らえるのに勇っていた、ールを操っていた。

加速 湖上に身を乗り出し、波を切って進む



真剣 大人顔負けのセーラーさばきをみせる子どもたち



疾走 帆の帯をつくりながらゴールを目指すヨット



転換 艇のふちに座り、巧みに体で重心を取る

